

令和4年度 学校自己評価表 米子松蔭高等学校

学校教育目標 「社会で真に役立つ実践的な人材の育成」	
① 自主自立の精神の涵養	責任と義務を尊重しつつ、自ら進んで目標に向かって努力する精神を養う。
② 人間性の陶冶	規律を守るとともに、人の苦しみや悲しみを正しく理解し、適切な行動のできる豊かで調和のとれた健全な人格の育成をめざす。
③ 勤労を尊重する精神の育成	勤労を尊重する精神を養い、社会に貢献しようとする意欲を育成する。
④ 進路指導の充実	生徒の興味・適性・能力を尊重し、適切な進路の決定ができるよう指導の充実を図る。
⑤ 学習指導の充実	わかりやすい授業を心がけ、生徒の適性に応じた指導に努める。
⑥ 生活指導の充実	生活面の指導を大切に、正しい服装容儀、規律ある生活態度で生きる姿勢を育成する。
⑦ 部活動の充実	顧問と生徒が目標に向かって共に努力してゆく中で、協調性・責任感・忍耐力を養う。

本年度の重点目標
建学の精神に基づき、これからの社会が必要とする人材の育成に努める。広い視野と知見を持ち、多様な価値観の中から、主体的に新しいものを創造していくことのできる力の育成を重点目標とする。

評価について A 達成できた B 概ね達成できた C やや不十分な点あり D かなり改善の余地あり E 全く不十分 () 評価せず または 評価できず

学年分掌	令和3年度末の状況	令和4年度の目標	具体的方策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
教務部	<ul style="list-style-type: none"> (教務) 授業におけるICTの活用場面が増えた。また、臨時休業等で生徒が登校できない場合に備え、オンライン授業により学習指導を継続する環境を整備した。学校行事は、生徒の連帯感を深めるために欠かせないものである。円滑な実施のため、感染症対策や様式に更なる工夫が必要となっている。 (図書) 環境整備に努めたのち、生徒の図書館利用と資料相談は増加傾向にある。引き続き環境整備に努め、図書館の資料とサービスについて積極的に広報する。情報を活用する力を図書館で育むことができるように取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業時間の確保に努める。 学校行事の円滑な運営に努める。 学習指導の充実を図る。 「読みたい気持ち」「知りたい気持ち」を大切に図書館づくりに努める。 授業支援の充実を努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 月間・週間行事の検討・計画を行う。日課の調整や変更を迅速に行う。 感染症対策を行い、都度様式の見直しと改善を行いながら運営する。 相互授業見学を継続的に実施する。生徒による授業評価を年2回実施する。 蔵書の増加、豊かな蔵書構築を目指す。関係機関と提携し資料提供を行う。丁寧な資料相談を行い、生徒、教員の求めることに迅速に対応する。図書館の資料とサービスの広報を積極的に行う。 授業担当者との連携をはかり、授業の内容に即した資料提供を行う。「読む」「書く」「調べる」活動を支援し、授業に特化したコーナーを充実させる。 	B A B B A	<ul style="list-style-type: none"> 特に臨時休業によって減教した午後の授業を確保するように努める。 円滑に運営できた。今後も様々な運営の様式を模索する。 授業見学により相互の情報交換ができています。授業アンケートは、2学期以降の実施を計画している。 資料相談を大切に、迅速に資料提供を行った。関係機関と連携し、豊富な資料を提供することができた。広報に努める必要がある。 さまざまな授業において積極的に資料提供を行った。授業や進路に特化したコーナーを作成し、資料を利用しやすい環境整備に努めた。2学期以降はより多くの授業で資料提供に努めていく。 	A A A A A	<ul style="list-style-type: none"> 行事の計画と日課の調整により授業時間を可能な限り確保できた。 感染症の感染対策に留意しながら円滑に運営できた。 相互授業見学と授業アンケートを計画通り実施した。授業におけるICT活用の拡充が学習指導の充実に繋がった。 丁寧な資料相談と豊富な資料準備に努めた。館内外での展示、生徒、教職員に対しての図書館の広報の回数を増やした。「読みたい」「知りたい」気持ちを大切に活動に取り組み、資料の貸出、授業利用へと繋いだ。 教職員へ授業に関連した資料や図書館サービスの広報を行い、さまざまな教科で授業利用に繋がった。生徒、教職員に資料を手にとってもらえるような環境づくりに努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間割の編成には、大型連休や月曜日の祝日に留意する必要がある。 学校行事は全校や学年を単位として活動できる機会となる。可能な限り中止を避け、安全に実施できるよう努めなければならない。 学習指導において、タブレット端末やオンラインの活用を効果的に取り入れることができています。プリントや黒板を使う従来の授業の利点を残しつつ、引き続きICTを活用しやすい環境を整えていく必要がある。 豊富な資料準備と丁寧な資料相談を引き続き大切にしている。図書館から積極的に情報を発信し、広報に努める。 授業での図書館活用において生徒、教職員が求めている資料や図書館サービスについては、アンケートなどを活用し意見を反映させていく必要がある。
総務部	<ul style="list-style-type: none"> 入試業務のスケジュールがタイトであり、前期入試の出願から後期入試の合格発表まで全体的なスケジュールの見直しが必要と思われる。 時代に沿った入試業務のあり方を検討し、前に進めていく必要があると思われる。 コロナの終息にはもうしばらく時間がかかると思われるが、その中でも学校と保護者との協力関係のあり方を探る。 床や天井、壁などを修繕し、生徒の学びの環境を整えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 正確で円滑な入試事務作業の実施 学校と保護者との協力関係のさらなる構築 校舎の環境保全に努める 	<ul style="list-style-type: none"> 時代に沿った入試方法について考え、出願から入学までの流れにおいて受験生、中学校、本校にとってよりよい入試となるよう進めていく。 出願から入学者確定までのスケジュールを入試事務スタッフ全員が周知し、他部署と連携するとともに各自が責任をもって役割を果たす。 世の中のコロナとのかかわりを見ながら、学校と保護者との協力関係のあり方を探る。 歴史ある校舎に生徒が愛着を持てるよう、日々の掃除を徹底させる。 破損個所の速やかな修繕に心がける。 	() () A	<ul style="list-style-type: none"> 入試の時期ではないので評価できず。 コロナウィルスの感染拡大により、学校行事が延期となったため評価できず。 清掃が行き届いていると思う。また修繕についても比較的速やかな修繕が行われていると思う。 	A A B	<ul style="list-style-type: none"> Web出願導入1年目であり、入力フォームの作成から受験番号の発行までを行った。次年度以降への課題はあるものの、業務の効率化を図ることができた。 入試事務スタッフがそれぞれに役割を果たし、他部署との連携も円滑に行うことができた。 3年ぶりに千人鍋の実施を行うことができた。そのほかにも保護者の方が学校行事に参加することで協力関係を築くことができた。 校舎内の清掃は比較的行き届いていると思われるが、破損個所の修繕が速やかではなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> Web出願を本校、中学校、受験者にとってもっと便利なものであるようにしたい。 コロナの状況をみながら保護者との協力関係のあり方を探る。 引き続き、床や天井、壁などを修繕し、生徒の学びの環境を整えていきたい。
進路指導部(就職)	<ul style="list-style-type: none"> アフターコロナの経済再開を予想していたが、インフレとヨーロッパの混乱は現在の経済・雇用状況を破壊しかねない。最悪10年前の不景気が舞い戻り、進路指導は混沌とすることが予想される。生徒の実力向上が条件となるので、対策を立てたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりをよく理解し、能力・適性に合った進路指導に努める。 経済状況は不安定になりつつあり、最悪の場合を想定し、適切な進路指導に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 「進路総合評価」「進路適性検査」を参考にし、担任又は就職・教育支援担当者、カウンセラー及び部活動顧問、家庭、さらに関係機関との連携を密にし、個別面談を重ね、能力・適性に合った進路指導に努める。 今年度も積極的な就職先訪問は出来ないが、電話などで状況を把握すると共に、本年度の採用計画を聞き出した。企業との関係性は今まで培った信頼関係でカバーしていく。また、経済状況の浮き沈みを見定め、適切なアドバイスを心掛ける。 	C B	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の影響は今年度が一番酷く、必要書類の作成段階でコロナが蔓延しつつあり、進路指導に影響が出ている。出遅れた時間を埋めるには倍の時間が必要で、進路指導の達成度からすると、厳しい状況である。 今年度の求人数は、予想よりかなり多くの求人数が出ており、引く手数多の状態であるが、世界経済は混沌としている。「月満つれば則ち虧く」のように、現状がいままで続くかわからないので、現状の経済状況も確認しながら、適切な進路指導を引き続き心掛ける。 	A B	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中、夏休み中の職場見学会ではコロナ感染による見学延期の調整、夏休み明けもコロナ感染による応募必要書類の遅延調整、採用試験ピークである9月後半は、受験先のコロナ感染・本校生徒のコロナ感染・大型台風の上陸と、様々なイレギュラーな状況が続いたが、担任・副担任の先生方、進路指導部の先生方の迅速且つ的確な対応により、大きな影響なくスムーズな対応が出来た。 年末から少々採用状況が狭くなってきていることもあり、まだ就職が決まっていない生徒がいる。最大限の指導を心掛け、年度末までには内定先が決まるよう指導したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 少子化の時代になり、就職先を選べる時代になっている。だが、自分の夢・目標を反映させることの出来る企業選定が出来ない(企業を知らない)。企業選定の失敗は早期退職・生徒と保護者の満足度の低下に繋がるので、次年度は企業研究の進め方について対策をしたい。 世界規模のIT企業のリストラ・燃料の高騰など、世界の経済状況は暗雲が垂れ込める状況になりつつある。不景気はこれからで、求人数は来年度からはやや下降気味を予想。採用試験は企業に余裕が無くなる生徒の伸びしろより、実力を問うてくるので、危機感のない生徒は苦戦することになりそうである。早い段階での進路決定を促し、万全の状態での採用試験に望みたい。
進路指導部(進学)	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学力の向上と、生徒にあった進路先の選択が出来るよう、各種ガイダンスの企画・案内を活用して生徒の意識を変えていきたい。自発的に調べていける力も同時につけていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の希望進路合格を目指す。 各種ガイダンス等を通じて生徒の進路意識の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 多種多様な受験形態の研究を進め生徒とともに最善の受験校への受験方法で合格を目指す。 学年ごとのガイダンスの方法のやり方を考え、より興味関心が高まる方法を考えていく。BLENDを利用してオープンキャンパス、オンライン説明会等の案内を徹底して行う。学校から与えられるだけでなく、自分から進んで研究できるような情報を流していく。 	B B	<ul style="list-style-type: none"> AO入試や総合型選抜などの入試に夏休み前から対応を始めることが出来た。ただ、エントリー前の確認をせずにエントリーしてしまう生徒が若干名いたので今後の受験では生徒との連絡を密にとっていく必要がある。 今年度はコロナ禍ということもあり、オールリモートでのガイダンスなど、例年とは違ったスタンスで生徒への情報発信が行えた。まだ受け身の生徒もいるので、今後情報発信を続けると同時に、生徒が自分から調べることが出来る力の育成も同時に行いたい。 	B A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の希望に沿った進路決定が概ねできた。また、希望校への合格が果たせなかった生徒もいたが、保護者との連絡を密にこもり、次の進路決定に向けて、素早い対応が取れた。国立等、一般受験をする生徒に対しても、引き続き生徒に寄り添って指導を続けていく。 各種ガイダンスを行ったことにより生徒の進路意識は確実に高まった。その結果、例年よりも各自の学力や適正にあった学校を希望する生徒が多くなり、進路指導がスムーズに行われるようになった。また、BLENDでの案内をみてオープンキャンパス、オンライン説明会などへの参加者が増えたのと同時に、各種奨学金の希望者も増え、情報の共有が出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> 受験の複雑化の為、生徒とともに教員側も、今まで以上のチェック体制を構築していく必要がある。

学年分掌	令和3年度末の状況	令和4年度の目標	具体的方策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> 概ね学校生活は落ち着いていたが、挨拶をもっと積極的にできるような継続的な指導が必要。また、近年SNSの利用についての問題行動が増えている。インターネットの利用に関する教室を積極的に導入して行く必要性あり。また、公共施設でのマナーをはじめ、校外での様子についても地域の方から注意を受けることもあった。校外/パトロールやルームでの指導の徹底が必要。 登下校時に本校生徒も不審者による声かけなどの被害があった。学校へ寄せられる被害者情報の提供を行い、被害に遭うことのないよう注意喚起を継続的に行った。また、交通ルール遵守の指導を継続して行い。特に立ち番指導を強化して行く必要性あり。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣を身につけさせる。 生徒が安心して通うことができるよう指導に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 新入生は、オリエンテーションを通して学校生活に早く慣れさせる。 挨拶の徹底を全校集会やルームなどで呼びかけるとともに、通学指導などで教員からも積極的に声をかけを行う。 服装規定の遵守のため服装指導を徹底する。(昨年度より2回増を予定) 社会のルールやマナーを理解し守るよう指導する。 登下校中に事故や被害に遭わないよう安全指導を徹底する。(各ルーム、立ち番指導等) いじめを許さず、見逃さない。生徒の言動に変わった様子はないか注意する。 	<p>A</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> 目標に対して概ね良好であった。全教員が温度差なく指導の継続を行う。欲を言えば、全体的にもう少し大きな挨拶ができるように教員が模範となって呼びかけを行う。 登下校時、教員の立っていない場所・時間にルールを守れず、近隣地域の方に迷惑をかけている現状がある。講演会、HRなどを通して交通ルールの遵守を再度確認し、交通事故防止に努める。 	<p>B</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> 概ね良好ではあったが、全体的に挨拶に元気がなかった。服装に関しては乱れも少なかったように思う。しかしながら、ネクタイの不着用や許可されていない防寒具の着用などがあった。各クラス、授業において温度差なく指導の継続を行う。また、年間を通して同じような生徒が遅刻をしており、生活習慣の見直しの呼びかけも必要である。 2学期以降も自転車乗車マナーについて何件かのご指摘(近隣・市内)があり11月中旬から12月中旬までの1ヶ月学校周辺危険箇所での立ち番指導を実施。成果がいまひとつ出しておらず定期的な指導が必要である。いじめに関しては、普段から担任を中心に生徒の状況を把握するよう努力している。また、QUの結果を参考にした対応と指導を心がけている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も計画していた講演会が急遽中止になるなど様々な場面でコロナ感染症の影響が出てしまったが、来年度は全校対象が厳しい状況であれば、各学年の現状に合わせた講演会など少数での開催を取り入れて行きたい。 また、交通マナーにおいて近隣住民の方をはじめ多くの方に迷惑をおかけしている現状があり、各クラス、全校での指導を継続的に行い定期的に危険箇所を教員を配置し立ち番指導を実施し交通安全に努め改善を図りたい。
人権教育推進部	<ul style="list-style-type: none"> 前年度、生徒間で新型コロナウイルス感染症に関わる問題は生じていない。感染された人、濃厚接触の人、ワクチンを接種した人、接種していない人、それぞれの多様な立場をふまえ、尊重しようと教職員、生徒ともに努めた。 人権に関わる諸問題に取り組み、生徒の学習意欲を高めることができた。 人権ホームルームでは、生徒が身に付けたい知識・技能・態度を明らかにして学習を進めた。特に3年生公開授業では成果と課題を明らかにできた。言葉遣いアンケートを通じ、不適切な言葉の把握とその防止に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 多様性を理解し、尊重する技能、態度を養う。 人権学習を通じ、人権感覚を高め、積極的な判断力・行動力を養う。 クラスを中心に、部活動、家庭など、お互いの想いを大切に、適切な言葉遣いを心掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍が続く中、新型コロナウイルス・ワクチン接種をめぐる問題をふまえ、様々な人の立場を尊重する。また、多様性に関わる新たな課題にもアプローチしていく。 人権ホームルームにおいて、全体計画、各学年年間計画をふまえ、毎時間、生徒が身に付けたい知識・技能・態度を明らかにしながら学習を進める。 推進部、学年部の人権担当が連携し、言葉遣いアンケートをふまえ、お互いを尊重した言葉遣いへの啓発を進めていく。 	<p>B</p> <p>A</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス・ワクチン接種・オンライン授業をめぐる問題は生じていない。引き続き、それぞれの立場・判断を尊重する生徒の育成・クラスづくりに努めたい。アイヌ差別問題・性の多様性に関わる問題など新たな課題に取り組んでいる。 1年部多様な人権課題、2年部SDGsからみた部落問題、3年部就職問題など各学年部年間計画の下、毎時間、生徒に身に付けさせたい知識・技能・態度を明らかにして取り組んでいる。 年度初め、1年部など全体学習を通じ、前年度の言葉遣いアンケート結果を活用し啓発を行った。各学年、ホームルーム・人権学習でも、一人ひとりを大切にす観点から、クラス内の不適切な言葉に気づき、それを無くしていくと努力している。 	<p>B</p> <p>A</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス・ワクチン接種をめぐる問題など校内では生じていない、啓発資料の作成・啓発準備に努めた。アイヌ差別問題や性の多様性に関わる問題、SDGsからみた部落問題、医学部・医科大学の不正入試問題など新たな課題に取り組んだ。 各学年部、人権ホームルームにおいて、年間計画の下、毎時間、生徒に身に付けさせたい知識・技能・態度を明らかにして取り組んだ。2年部公開授業では、生徒に身に付けさせたい力を明らかにし、主体的・対話的な深い学びを実践し、成果をあげた。 年度初め、1年部など全体学習を通じ、啓発を行った。今年度は、アンケート集計結果後、不適切な発言を「言われた生徒」への聞き取り・発言者を含む全体啓発指導を、迅速かつ具体的に実践した。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス・ワクチン接種問題に引き続き取り組む。アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)、性の多様性をめぐる新たな課題などふまえ、さまざまな人権課題に取り組んでいく。 各学年部、生徒に身に付けさせたい資質・能力を明らかにし、人権学習に取り組んでいきたい。また、単元をつらぬく問い、いずれの問題も関わる生徒・関わらない生徒の学習意欲を高める努力など課題にも向きあいたい。 アンケートの実施時期および方法を検討したい。すなわち、実施時期は10月など早めるべきか、方法はBLEND実施(実質、記名制となる)へ変更すべきか検討したい。
教育相談・支援	<ul style="list-style-type: none"> 個別の支援計画の作成について、入学後、早期に取り組み、教職員間で作成の流れを共通理解出来る様にしておく必要がある。 支援が必要な生徒の多様化、増加に対し、引き続き学年部の協力、情報交換の場を持つ等の教育相談、支援体制のあり方を検討。 研修の参加について、生徒理解の一助として、出来るだけ多くの先生方に呼びかけたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別の教育支援計画の推進 入学時からの連携作り 学校全体として支援理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別の支援計画の作成について流れを共通理解し、早期に取り組み出来るようになる。 担任と教科担任との連携深め、支援の早期対応につなげる。 教育相談・支援担当者の連携を図り、生徒のニーズの多様化に対応していく。 担任、教科担当、養護教諭、外部機関(医療・福祉等)を交えた連携会議を効果的に行う。 研修会・講演会等の参加を積極的に促す。 SC・SW連携を通じて学校全体としての支援理解・学びを深めていく。 	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> 三者懇談が休校のため変則開催となり、保護者確認が例年と違う形となった。継続して保護者との連携に努めていく。 中学校からの引継ぎと情報共有はスムーズに行えた。学年主任や担任との情報交換のほか、BLENDを活用した情報収集に努める。 外部機関との連携も引き続き効果的に行っていく オンライン研修などもあるので、積極的に紹介していく。 月に1回のペースで校内連携会議を行うことができた。より充実した会議としていく。 	<p>B</p> <p>A</p> <p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> 休校その他で保護者確認が例年と異なり、多少の遅れはあったが、その他は、例年通り活用することができた。 担任・学年主任・部活動顧問などと情報交換を行い、連携を図ることができた。 市町村の福祉課や医療機関と連携し、支援につなげた。 オンラインの研修が増え、機会はむしろ増えた。 SC・SSW会議を月1回行い、校内関係者を交えて生徒の諸問題について充実した話し合いができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報交換を積極的に行い、教員間で正確な共有につなげる。 今後も市町村や医療等と連携を深めていく。 全職員への紹介を増やしていく。 相談室の活用に向けて情報発信を行う。
広報	<ul style="list-style-type: none"> 感染対策を取りながらオープンスクール・入試説明会を適切に実施・運営することができた。各学部活動体験を企画・情報発信し、適切に実施することができた。 通年、Webページ・SNSによる情報発信を迅速に行うことができ、閲覧数・登録者数を確保することができた。それにより、開かれた学校づくりの一端を担うことができた。また、学校PR動画や学校案内パンフレットの制作を通してイメージを向上させる有効なブランディングを図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> オープンスクール・入試説明会・部活動体験の充実と参加者の確保 開かれた学校づくりの推進と学校ブランディング 	<ul style="list-style-type: none"> 中学生・保護者・中学校への的確な情報発信 オープンスクール等の実施内容の精査、円滑な運営 広報活動の充実 Webの更新・管理運営 SNS等による情報発信 	<p>A</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> オープンスクールに関する連絡等、各方面への情報発信を迅速かつ適切に行うことができた。参加申込者数を確保することができた。 感染対策を取りながらオープンスクールを適切に実施・運営することができた。 Webページ・SNSによる情報発信を適宜行うことができ、閲覧数・登録者数を確保することができた。 	<p>B</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> 感染対策を取りながらオープンスクール・入試説明会を適切に実施・運営することができた。各学部活動体験を企画・情報発信し、適切に実施することができた。 Webページ・SNSによる情報発信を適宜行うことができ、閲覧数・登録者数を確保することができた。学校PR動画や学校案内パンフレットの制作を通してイメージを向上させる有効なブランディングを図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> より効果的なオープンスクール・説明会等の実施内容・運営方法を検討し、更なる入学志願者増加につなげる。 これまで行ってきた広報活動の効果を検査し、一層の充実を図ると共に、多様な媒体を用いた広報活動を提案する。

学年分掌	令和3年度末の状況	令和4年度の目標	具体的方策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
生徒会	<ul style="list-style-type: none"> 10月に学校祭、及び11月にスポーツ祭を実施することができた。執行部、教職員、生徒をはじめ多くの協力のもとで、思い出に残る行事にすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の開催に向けて早めに計画を立て、より良いイベントが実施できるよう準備する。 各クラスの中央委員との連携を図る。 	()	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナの影響で延期となったため評価せず。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 10月に学校祭、及び11月にスポーツ祭を実施することができた。執行部、教職員、生徒をはじめ多くの協力のもとで、思い出に残る行事にすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事を成功させるために、早めに計画をたてて行動する。また、生徒会だけでなく生徒全体が主体となるイベントを目指す。
	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体となって行事の運営等を積極的に議論することができた。今後も生徒会全員で学校生活を充実したものにするために、活動を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活をより充実したものにするために、定期的に部会を開き、議論する。 ボランティア活動の呼びかけを行い、生徒の参加を促す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 毎週放課後に議題を持ち寄り、積極的に議論することができた。今後は部員の参加率を更にあげていきたい。 ボランティア活動について、実施予定のものについては可能な限り案内し、多くの生徒が参加している。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体となって行事の運営等を積極的に議論することができた。今後も生徒会全員で学校生活を充実したものにするために、活動を続けていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 幹部会を発足させて、より活発な議論を行う。新1年生にもサポートメンバーとして参加してもらい、引継ぎをスムーズに行う。
	<ul style="list-style-type: none"> 他分掌と連携を図り活動することができた。引き続き学校を盛り上げるように、連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体となって学校について考えていけるよう、各部活動との連携を図りながら学校生活の充実を目指す。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 他分掌と連携を図り活動することができた。引き続き学校を盛り上げるように、積極的に関わっていききたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 他分掌と連携を図り活動することができた。引き続き学校を盛り上げるように、連携を図っていききたい。 	
学年分掌	令和3年度末の状況	令和4年度の目標	具体的方策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
一年部		<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 早寝・早起きを推奨し、基本的な生活習慣を見直すよう指導し、遅刻欠席をなくすよう務める。 挨拶・清掃活動を通じ、お互いの人権を尊重し同時に公共心やそれを行動に移す姿勢を育む。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各クラスの担任・副担任の連携によりホームルーム活動を円滑に進めることができた。また、遅刻して登校する生徒が少ない。この状態を継続できるように努めたい。また、教員の目の届く場では他者の人権を尊重した行動が取れているように感じるが、教員の目の届かない場でも同様の行動ができるように指導する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活に慣れていくにつれてルーズな面が見られたが、遅刻して登校する生徒は全体的に少なかった。 人権啓発と挨拶・清掃活動の啓発の相乗効果を期待し具体的な方策として、全体的にその効果は多くの生徒には見られたが、一部の生徒には見られず、同時に挨拶や清掃活動も不十分であるように感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 中弛みと言われる学年となるので、遅刻・欠席が無いよう引き続き根気強く声掛けをしていく。 また、上級生として模範となるよう挨拶や清掃活動に対して意識を高くできるように指導していきたい。人権意識を高く持ち、教員の目が届くかどうかにかかわらず相手を思いやる行動がとれるよう指導する。
		<ul style="list-style-type: none"> 学習習慣の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 話を聞く姿勢、授業を受ける態度を指導する。また各考査に向けて日頃より学習意欲を持ち計画的に学習するよう指導する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> オンライン授業と通常授業の並走もあり指導の難しさが如実に感じられた。そのため、生徒一人一人の学習意欲の向上まで行き届くための創意工夫をし、生徒との連絡を密にしていきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりが授業に集中できる環境作りを呼びかけ、状況が改善しつつある。 また、提出物等の状況が良くなった。これにより、学習に対する意欲の評価も向上した。 	<ul style="list-style-type: none"> 集中力が続かない生徒や課題提出が滞ってしまう生徒に対し、根気強く声を掛けて、教科担当とも協力して指導を行っていく。また、話を聞く姿勢も継続して指導する。
		<ul style="list-style-type: none"> 家庭との連携の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 学校からのBLEND連絡を確認すること、及び配布物を必ず保護者に渡すように指導し、回答があれば必ず提出するよう指導する。 状況に応じ保護者に連絡し学校や家庭の様子について情報交換を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> BLEND連絡の数は1学期中だけでもかなりの件数あった。連絡内容も多岐にわたっている。保護者に対しても生徒を通じ呼びかけ既読率が向上するよう努力していく。 また、オンライン授業を希望する場合は保護者からの連絡のみに徹底できたことは良かった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 担任・副担任を中心にBLEND・電話等でできめ細かく保護者との連携が取れていた。 	<ul style="list-style-type: none"> BLENDの活用機会が多くなっているため既読率向上の呼びかけを継続して行う。
学年分掌	令和3年度末の状況	令和4年度の目標	具体的方策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
二年部	<ul style="list-style-type: none"> 徐々にではあるが、マスク着用や交通ルールを守れるようにはなつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶や正しい服装の定着を図るよう、学年部で連携して指導をしていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 大きな声で挨拶ができる生徒が増えてきている。服装面ではより一層正しい着こなしができるように指導する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 元気に挨拶をする生徒が多くなり、また決まり事について積極的に守る姿勢が見受けられるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 正しい服装や基本的な生活習慣を徹底するなど、最上級生としての範を示せるようになる。
	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度は概ね良好ではあるが、授業に取り組む姿勢を更に指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習習慣の確立と進路意識の高揚 	<ul style="list-style-type: none"> 授業や家庭学習で目的を持ち取り組むように指導すると共に、自らの進路について真摯に考え、調べられるようにしていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度は大半の生徒が落ちついて取り組んでいる。オンラインなど、家庭学習機会が増えているので、丁寧に声かけをして対応していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 自己の進路をしっかりと考え、それに向かい努力するようになってきている。授業に対しても真剣に取り組む姿勢が見受けられるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路に向けた意識を高めるために、声かけを積極的に行っていく。また、家庭学習の定着を図るために、適時指導していく。
	<ul style="list-style-type: none"> BLENDでの欠席連絡は概ねできているが、連絡文章や提出物について、一層確認する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭との情報交換をこまめに行い、迅速な対応に努めると共にBLENDの活用を促していく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> BLENDなどのICTによる情報交換を行うことができた。常に迅速に対応できるように心がけていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の状況や変化について家庭との連絡をこまめに行うことができた。また、ICTにより連携を行い、適切な対応をしていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続きBLENDの有効活用を実践すると共に、生徒の状況について常に連絡を密に行うようにする。
<ul style="list-style-type: none"> 学級活動を通じてクラスとしてまとまってきている。あわせて、責任ある発言をより求めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 人権意識の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な個性や価値観があることを理解し、お互いを認め合う姿勢を育むとともに、周囲を思いやる気持ち、協調性を育成する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> クラスとしてのまとまりはできてきているので、他者を認め合い、わかり合う気持ちを育てていきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 小さな行き違いやトラブルもあるが、学年全体としては落ちついてきている。また、それぞれのクラスで良好な友人関係を築いている様子が見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業のグループワークやHR、学級活動を通じて、より良い仲間作りや人間関係を構築していくよう促す。 	
学年分掌	令和3年度末の状況	令和4年度の目標	具体的方策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
三年部	<ul style="list-style-type: none"> 服装指導を含め校則について、クラスや学年集会を通して指導を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の定着 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶や正しい服装、時間厳守の定着と実践を図る。 最上級生としての自覚と責任を持って行動するよう指導する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 自分から進んで挨拶をしたり、相手にわかるように挨拶を返したりできるよう声掛けを行う。自分の服装や言動が周囲に与える影響に十分配慮し、責任をもって行動するよう促す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶や時間厳守など、最上級生としての自覚ある行動を心がける様子が見られた。進路決定後には気持ちの緩みから生活面や服装面が乱れないよう根気強く声掛けを行った。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 表面的な学習で終わらず、就職試験や入試に対応できる学力を身につけさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学習に取り組む姿勢の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 進路決定に向け、授業や家庭学習に目的を持って取り組むよう指導する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 目的意識や意欲が希薄な生徒、困り感のある生徒について、教科担当と連携して適切に対応・指導を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 明確な目標設定を促し、進路決定に向けた学習に取り組める環境作りを促した。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 進路に対する意識や目的意識の一層の向上が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 適切な情報提供やアドバイスに努めるとともに、授業や総合的な探究の取り組みを通して進路決定に向けたサポートを行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導に十分な時間がとれない状況が続く場合に備え、個別指導やBLEND等を利用した情報提供など、臨機応変な対応を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学年部と進路指導部、教科担当が連携して進路決定に必要な情報提供や学習指導、面接指導を行い、生徒一人ひとりの意識を高めることができた。 	
<ul style="list-style-type: none"> BLENDを活用した連絡等が概ねスムーズに行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との連携を深め、学校での様子や家庭での様子、進路希望などについて共通理解を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 電話やBLENDによる家庭との連絡を密にし、学校での様子や家庭での状況、進路希望などについての把握に努め、時機を見て適切に対応する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生活指導および進路指導を中心に家庭との連絡をこまめに取り、連携を図ることができた。 		
<ul style="list-style-type: none"> 欠席が続く等、心配な点がある生徒についてはこまめに家庭と連絡をとり、問題の早期発見と解消に繋げることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 人権意識の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事や学級活動を通じ、周囲を思いやり尊重する心と、目標の達成に向け互いに協力する姿勢を育む。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 遠足や研修旅行などの学校行事を通して交流を深める一方で、気安さから配慮を欠く言動も一部見受けられる。相手の立場や気持ちを考えた発言や行動ができるよう、繰り返し声掛けを行っていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 社会人となるにあたって必要な規範意識や人権意識、周囲への配慮等について根気強く説明と指導を行い、意識づけを行った。 		